

平成30年度 第1回男鹿市総合教育会議議事録

1 日時 平成30年8月10日（金）10:00～11:15

2 場所 男鹿市役所3階第一会議室

3 出席者 男鹿市 市長 菅原 広二
男鹿市教育委員会 教育長 栗森 貢
委員 目黒 恵子
委員 吉田 貴美子
委員 安田 一彦
委員 小玉 亜紀子

4 協議事項

「教育の振興に関する施策の大綱（男鹿市教育大綱）」案について

5 会議録

●事務局

ただ今から平成30年度第1回男鹿市総合教育会議を開会いたします。
初めに、菅原市長よりあいさつをお願いいたします。

●市長

おはようございます。今日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。今日の協議事項は、新たな教育大綱を策定するための大綱案について、委員の皆さんのご意見を伺うものでありますので、どうか皆さん忌憚のないご意見をお願いします。男鹿の子どもたちが未来に夢と希望をもって羽ばたいていけるような、男鹿市の新たな教育大綱づくりを進めていきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

さて、私がいつも言っているのですが、観光関係者以外の人たちが「おもてなしの心」を持って、「こんにちは」とか、「いらっしやい」などと言えれば、男鹿は変わって行くだろうと。そのためには男鹿の良さを理解して、歴史・伝統・文化・景観・食、いろいろな優れているところを誇りをもっていかなければならない。私たち大人がいかに子供達に良い後姿を見せることができるかと、そのためには経済が豊かでなければ駄目だということもあると思います。経済的なことはオガーレや雲昌寺などをみても、非常に良い雰囲気になってきているので、いろいろな波及効果が期待できると思っています。九州の宗像市から来ている責任者の山崎さんが言うには、「男鹿の人は一手間かけたがらない」と。小さな魚を今までは捨てていたかもしれないが、それを加工することによって利益が出てくると。今出している魚

が売れ残ったものも、もしかしたら加工すれば付加価値が付くのではないかと。そのことが収入に繋がるし、健康づくりにも繋がって行くと、一石二鳥になると思うし、そうしたことも大事だと思っています。

今、オガレにクレームが結構来ているそうです。良いことはみんながそのクレームを当事者意識をもって、自分たちが経営者意識をもって、「オガレ頑張れ」という気持ちで、いろいろな意見があるようだ。そういう意味では男鹿市民も変わって来て良い雰囲気になってきたと思います。

もう一つシンプルなことですが、あいさつがきちんと出来るかが大事なことだと思っている。一昨日も厚生連医療センターの会議に行きましたが、そこでは医師を中心にプロジェクトチームを作ってあいさつ運動をしようということで、医師は必ず患者に会ったら、「お待たせしました」、診察が終わったら「お大事に」、廊下ですれ違ったら「こんにちは」とあいさつをするそうです。非常に病院の中が明るくなって来て、モチベーションが上がり、いろいろな提案が増えて来ているそうです。そうしたあいさつが非常に大事だと思うので、私も市役所の清掃員の方々に対して、「あなた達が変われば市役所の職員も黙ってられないだろう」と、まずは清掃員の方々が元気で笑顔に対応すれば変わるからと、組織は上から落とすのではなく、下から上にあげていくように、そうしたお願いをしています。いろいろなことを言いましたが、教育や健康づくり一つをとってもオール市役所で横軸をしっかりしていないといけないと思います。市役所はとかく縦軸が多いが、そうではなく横串を通して行かないといけないと思う。今日の会議も横串を通すために総務課も入っているので、いろいろな忌憚のないご意見を聞かせてもらえればありがたいと思います。

●市長

それでは、協議事項の男鹿市教育大綱（案）について、栗森教育長から説明をお願いいたします。

●栗森教育長

～資料に基づき説明～

●市長

皆さんからただ今説明のありました大綱案について、ご意見をお伺いしたいと思います。ご意見ありませんか。

●小玉委員

小中学校の適正配置については、部活動でもなかなか思うような部活ができないという声も聞こえているので、これから大変になるとは思いますが、取り組んで行かなければならないことだと思います。

●教育長

大事だと思うことを掲げていますので、適正配置についてはすぐ統合ありきという考え方ではなく、学校づくりも含め、子供たちの適正な規模での学校といのは男鹿市ではどうなのかと。秋田市では1校当たり600人ということですが、男鹿市ではそういうわけにはいかないので、今現在、小学校でも100人を下回っている学校もあるので、そういった面では地域の声もありますが、将来的な子供たちの人数を見ながら、どのような学校の維持の仕方、

あるいは作り方があるのかということも、いろいろご意見をいただければなと考えています。

●市長

五里合小学校の閉校式に行った際にも中学校は仕方がないと思ったが、小学校は非常につらいという声があった。これまでの地域づくりの核で、学問の場だけでないという面もあることから、教育的なこと、全体の地域づくりなども考えてやっていかないといけない。教育委員会だけの問題でないということで捉えていかないといけないと思う。

●安田委員

地域の文化等を子供たちに伝えて行くことは、やはり地元にいる子供達と地域の方々との関わり方が大事だと思う。そうしたことを持続していくことによって、子供たちが大人になってからもまた次の世代へ継承され、地域が保てることになると思う。ですから統合は残念だという気持ちが出てくる。少子化ということから何ともならない問題だと思うが、極力、地域づくりが維持できるような態勢をとっていかないといいなと思う。

●市長

今年の柴灯祭りである方から聞いたが、真山地区には60戸くらいだが若者の定着率が極めて高いと。それは何故かということ「なまはげ」があるからだということであった。なまはげは共通の道徳文化だという話であった。オガレができて思ったことは、「近き者喜べば遠き者来たる」と私はいつも言っているが、商売はファンを大事にしないといいなと。自分たちの近い人の評価が非常に大事で、身近な人が喜んでくれると遠くから人が集まって来るとのことだと思う。オガレをやって思ったことは、安田委員が言ったように結局は地域の文化の伝承だと思う。自分たちで採った魚や野菜に値段を付けて売って行くと、そのことが地域に支持され、競争力をもって切磋琢磨して出品していくと。地域の人たちに親しまれることによって、それが後継者の育成に繋がっていくと。ただ商売でモノを売るだけでなく、後継者育成などをして地域を活性化させていくことが大事だと改めて思っています。

●目黒委員

貴重な文化財の維持管理とあるが、文化財の展示は考えられないか。せっかくある文化財をしまっておかないで、人目に触れるように展示していくことが必要ではないか。保管しているのはどうかと思う。

●市長

今年度から、教育委員会の所管であったジオパークや脇本城跡などの文化財関係の業務について、観光文化スポーツ部を設置して移管した。国の方針も歴史・伝統・文化をもっとオープンにして観光に結び付けていく、そうしたスタンスになっている。ジオパークや脇本城跡は切り口がいっぱいあることから、何とか観光に結び付けていきたい。専門的な人だけでなく、もっと市民にも知ってもらえるような取組をしたいと思っている。目黒委員も言ったように天野芳太郎氏や脇本城跡など少しでも良いから、若美のジオ学習センターに集約できないかと、そうしたことが現実的ではないかと思っています。

●目黒委員

県内他市では埴輪を旧学校に展示して人気を得ていたようなので、文化財を保管しておかないで展示したり、現代風の切り口で展開していくことがあっても良いのではないかと。

●市長

収蔵している文化財をオープンにして見せて、夢を掻き立てていくようにする必要があると思うので、少しでも展示していきたいと思います。

●安田委員

専門家の中で閉ざされたイメージがあって、一般の人たちにオープンになっていないような感じがする。

●市長

以前、宮城教育大学の教授から脇本城跡は日本で5本の指に入る中世の城だと言われた。歴史は現在に活かして初めて歴史の価値があると。現在にどう活かしていくか、何とかできるように取り組みたい。いずれにせよオープンにして公開することによって、多くの方を男鹿に呼ぶということも大事だと思います。

●安田委員

脇本城跡には結構人が来ているのを見かけている。

●市長

そうした方が来ることによって地域の方が元気になる。オガレにも人が来るようになって、船川の人たちが元気になったという話を聞いている。脇本城跡などにも人が来るようになって、地域の人たちと会話することによって元気が出てくると思う。訪ねてくる人たちも地域の人と会話することも楽しいと思うので、そうした仕組づくりも進めたい。

●吉田委員

2.地域間交流の機会の充実と国際交流の推進について、できたらという願望ですが、潟上市では中学生が平成17年から夏休みの8日間を利用してオーストラリアへ海外研修で中学生を派遣している。参加者は十数名で市が全体の3分の2の補助を出しているようだ。国際教養大学と1日の交流でネイティブイングリッシュに触れることはできても、結果が出るかを考えると疑問がある。潟上市でも実施しているので前向きに検討してほしいと思う。

●栗森教育長

市でも以前実施していたが、当時の首長の考え方もあり廃止した経緯があります。どの子供達にも有益なものであれば良いけれども、ある特定の子供だけに大きな補助を出しても良いのかということもあって、そうした補助よりはALTを増員して、英語の授業を充実させるといったこともあったようです。

●目黒委員

これからは、海外への研修も必要だと思いますが予算の都合も大きいと思います。

●栗森教育長

英語学習では、イングリッシュキャンプという講座があり、県内の地域に児童生徒を集めて3日間程度、県内のALTと一緒に英語を学ぶ機会等もあるので、そうしたことも各学校では積極的に推奨しているので、学習する機会はあると思います。

また、市内の英語検定の合格者数は県内の目標よりも高くなっており、英語に対する関心度、目指そうという気持ちは高いように感じます。

●目黒委員

ALTの方をもっと活用して、地域の中でも何日間は英語のみで生活するといった空間を作って研修させるということも方法の一つだと思います。

●市長

男鹿も外国人が多くなってきているから、子供たちは他の地域よりも英語に触れあう機会があるので、そうしたことを生かせるようにしたいと思います。

他に何かありませんか。

●栗森教育長

大綱の初めの構想部分については、みなさんどうでしょうか。

●目黒委員

取組の柱のところ、「自立し、開かれた学びを支援します。」が少しわかりづらいので、具体的なことがあればわかりやすいと感じました。

●市長

ほかにないですか。

なければただ今皆さんからいただいたご意見を踏まえ、大綱を調整いたします。後日、事務局から調整した大綱を皆さんへお送りして、特にご異議がなければそれをもって男鹿市教育大綱の決定といたします。

以上をもちまして、男鹿市総合教育会議を終了いたします。